

※国立教育政策研究所『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』を参考に作成する。

那覇教育事務所様式

特別活動 学級活動(3) 指導案作成例

第2学年〇組 学級活動(3) 指導案

題材は教師が設定する。

令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時

指導者 教諭 〇〇 〇〇

年間指導計画第2年 〇月題材 学級活動(3) 一人一人のキャリア形成と自己表現

- 1 題材 「職場体験活動を学校生活につなごう」
学級活動(3) イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成

2 題材について

※以下に示した項目の内容を含んだものにして記述すること。

- (1) 生徒の実態 (略)
・生徒の学級生活における実態
・これまでの学級活動の取組 ・評価規準からみた実態と目指す方向
- (2) 題材選定の理由 (略)
・本題材設定の理由 ・本題材における指導の工夫と評価との関わりについて

『指導と評価の一体化』
のための～』P. 25第2
編を参考にする。

3 評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考え、自分らしい生き方の実現を図るために、必要な知識及び技能を身につけている。	自分らしい生き方の実現に向けて、現在の学習や将来の進路についての課題を見出すことができる。	将来の生き方を見通したり、これまでの生活や学習を振り返ったりしようとしている。

※評価規準は、学習指導要領「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえて、学校ごとに設定すること。

4 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
○職場体験活動の前に、「働くことの意義」や「職業に必要な適性」について考える。 (学級活動)	・ワークシートに記入させ、内容を確認しておく。	
○職場体験活動		
○計画委員会で本時の活動計画を立てる。 (昼休み・放課後)	・話し合い活動の役割と進め方を検討させる。	◎職場体験活動で学んだことを振り返り、発表会に積極的に取り組もうとしている。 【主体的態度】 (発表原稿、観察)
○発表会に向けて、発表内容と原稿を考える。 (昼休み・放課後等個人で)	・発表に盛り込む内容をあらかじめ決め、確認しておく。	

5 本時のねらい

職場体験で学んだことをまとめ、今後の学校生活のどんな場面で生かすことができるかを考え、自分のどんな力を伸ばしていきたいかを意思決定する。

6 本時の展開

	生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
導入 5分	1 本時のねらいについて確認する。		
	発表会を通して、職場体験で学んだことをまとめ、これからの生活にどう生かすかを考えよう。		
展開 35分	2 司会者から、話合いや発表に関する説明を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会コーナーを活用して説明させる。 	
	3 職場ごとに体験活動の内容を発表する。 <発表内容例> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所名 ・なぜそこを選んだか ・楽しかったこと、大変だったこと ・職業に必要な適性や、自分の適性 ・インタビューの内容 ・職場体験活動を通して学んだこと ・働くことの意義 ・これから働くまで意識して取り組むこと etc. 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場グループごとに発表させる。 ・フリップ、パワーポイントなど、発表形式はそれぞれ工夫させる。 ・聞きやすい隊形に並んで聞かせる。 ・発表を聞きながらワークシートに記入することを促す。 <div style="border: 1px solid black; background-color: #e0f0ff; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【努力を要する活動の状況と判断される場合】は、板書や友達の発言等から、具体的な目標設定をするよう促す等、どのような支援をするかを具体的に設定しておく。 (指導上の留意点などに記述すると良い。)</p> </div>	
	4 それぞれの発表内容に関する質疑応答や助言を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・助言を聞くことで、自分では気付かなかった点に気付くことができ、考えを深めることができることを強調する。 	◎発表会を通して、これからの自分自身の生活における課題を認識し、自分が実践することを意思決定している。 【思考・判断・表現】 〈観察・ワークシート〉
終末 10分	5 これからの生活で取り組むことを決め、ワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験活動を通して学んだことや、発表を聞いて考えたこと、気付いたことをもとに考えさえる。 	
	6 先生の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの学校生活にいかにか生かすか、そう実践するのか、について強調する。 	

7 事後の指導

生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
意思決定しためあてを意識して実践する。	・一人一人のめあてを掲示するなどして、実践への意欲付けとなるようにする。	◎意思決定したことを実践している。 【思考・判断・表現】 〈観察〉
実践について振り返る。 (年度末までの各月末の帰りの会など)	・振り返りを行う機会を設定し、継続した実践になるようにしたり、必要に応じて新たにめあてを立てて知折り組んだりできるようにする。	◎自分らしい生き方の実現を図るために、必要な知識及び技能を身につけている。【知識・技能】 〈観察・ワークシート〉

※評価は、本時のみで見取るのではなく、事前・事後も確実に評価すること。

8 板書計画 (略)

※国立教育政策研究所「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる 特別活動 小学校編」などを参考にすること。

《参考・引用文献》

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』（文部科学省 2017年）

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』

（文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター 2020年）

『楽しく豊かな学級・学校生活をつくる 特別活動 小学校編』

（文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター 2018年）